

JAICOH NEWS LETTER

No. 55 2008年5月発行



歯科保健医療国際協力協議会

Japan Association of International Cooperation for Oral Health

事務局：〒344-0003 埼玉県三郷市彦成 3-86 Tel & Fax : 048-957-2286

発行：深井穂博 編集：榎崎雅子、梁瀬智子

こんにちは。ゴールデンウィークは皆さんいかがお過ごしになりましたか？

私の（梁瀬）住む界限は、残念ながらずーっと冴えないお天気でした。最終日の今日は久々にカンカン照り。

お天気が良いとすっかり初夏な感じです。今号の最初は、1年中常夏の東ティモールから。

今回2回目になる『東ティモール便り』です！

東ティモール便り ～その2～

AFMET（東ティモール医療友の会）／ 小林 裕

皆さん今日は、AFMET（東ティモール医療友の会）の小林です。ティモールに来てから早いもので2年になろうとしています。11月にはじまった雨季も半分経過し、マラリアなどの発生もようやく峠を越したようです。最近の東ティモールの話題はなんと言っても2月11日に発生した大統領、首相の襲撃事件です。事件後、特に大きな混乱も無く1ヶ月半が経過しました。いち早く全土に非常事態宣言が発令され、夜8時（現在は10時まで延長）から朝6時までは外出禁止また政治的集会なども禁止され、首都ディリ市内では夜10時を過ぎると人通りは全く無く、治安部隊以外の車両も走っていません。皮肉にもディリ市内は、事件前より若者ギャング同士の抗争や走行車両への投石も減り安全になった感があります。事件の首謀者であるアルフレド元少佐は銃撃戦で死亡し、彼の呪縛から解放されたように、2006年5月の危機のきっかけとなった脱走兵士（こちらでは陳情兵士と呼んでいます）達も投降し、続々とディリ

に集まってきています。あとはアルフレド元少佐の右腕で、襲撃にもかかわっていたとされるサルシーニャが逮捕されればこの事件も一段落すると思われる。しかし、未だに10万人といわれ、いっこうに減る気配の無い難民問題など解決すべき問題は山ほどあります。難民問題について、政府は早期解決すると宣言していますが、WFPからの食料、飲料水の援助が現在も継続し、モバイルクリニックによる医療も無料で受けられ、さらに政府からの支援金（一説によると一家族4000ドル）ももらえるという、いたれりつくせりの現状では難民キャンプから出て行くという気にはならないと思いますが・・・。

さて、最近の保健関係の話題を2つお伝えしたいと思います。1つ目は歯科の話題です。昨年11月20日、東ティモール人歯科医3名、キューバ人歯科医1名を含む歯科医療チームが、テレビ取材班を引き連れ、ディリから私がいるロスパロスに大挙してやってきました。目的は歯科治療、歯科保健教育で

す。前日に顔見知りのロスパロス病院のデンタル・ナースから連絡があったので、当日見学に行ってみました。新しく改築された病棟の一室で、フェルナンデス先生が準備に追われていました。中国系ティモール人のフェルナンデス先生は、年は40歳前後でテトゥン語、インドネシア語、英語、中国語が話せる東ティモール歯科界のリーダー的存在です。診療室の外ではすでに100人以上の患者が列を作って順番を待っています。



ロスパロス病院内で行われた歯科治療風景
(中央はDr. フェルナンド)

東ティモールでは、歯科治療専門のデンタル・ナースが、各県に1つしかない国立病院で歯科治療を行っています。東ティモール人歯科医たちも昼間はデイリの国立病院などで勤務していますが、夜間はそれぞれデイリ市内のプライベート・クリニックで歯科治療をしているようです。話をもとに戻しますが、当日私が診療室で写真を撮っていると、フェルナンデス先生から「写真ばかり取っていても退屈だろうから、もしその気があるなら手伝って欲しい」と言われ、手伝うことになってしまいました。手伝うといってもひたすら抜歯するだけですが、正味5時間で20本ほど抜歯したでしょうか。腕が疲れました。



Dr. ルイによるブラッシング指導

もう1つの話題は東ティモール保健省の新しいヘルス・プロモーション・プログラムについてです。昨年行われた総選挙後、9月に新政権が発足し保健大臣もネルソン医師に代わりました。そこで突然のように登場したのが保健省の新しいプログラムSISCa(シスカと発音します)です。SISCaはポルトガル語でServiço Integrado de Saúde Comunitariaの略で、簡単に説明するとPSF(Promotor Saúde Família)と呼ばれるヘルスワーカーを各村のリーダーがそれぞれ5名選出し、保健省が主催する予防接種の手伝い、妊産婦および5歳未満児の体重測定、母子保健教育などのヘルス・プロモーション活動をコミュニティレベルで進めていこうというプログラムです。



日本のNGO、「SHARE」との合同ワークショップ

12 月末にはコミュニティーに対する十分な説明も無いまま “ポスト” と呼ばれる SISCa の活動拠点を各地でオープンさせました。私があるラウテン県でも 34 カ所の “ポスト” がすでにオープンしています。インドネシア時代にも似たようなシステムがあったそうです。“コミュニティーからのそしてコミュニティーのためのヘルスプログラム” がキャッチフレーズで、保健大臣も自画自賛しているこの SISCa ですが、PSF の選出方法、PSF に対する教育体制の不備、月に 5 ドルといわれる報酬の支給などいくつか問題を抱えたまま、見切り発車したこのプログラムの前途は多難のようです。



“コミュニティーからのそしてコミュニティーのためのヘルスプログラム” がキャッチフレーズの SISCa。
今後、どうなっていくのか気になります・・・小林先生の『東ティモール便り』、今後もお楽しみに！

次は連載第 2 弾、南太平洋医療隊の河村サユリ先生です！

JICA 草の根技術協力事業に応募して 2 (トンガ王国の歯科保健のためのプロジェクト)

南太平洋医療隊 / 河村 サユリ

草の根技術協力事業に応募して学んだ事は数多くありますが、その内の一つがプロジェクトサイクルマネジメント手法（以下 PCM 手法と略）でした。トンガ王国への援助事業提案に際し、JICA 職員をはじめ歯科領域以外の人々に、日頃何気なく使っている歯科用語を理解してもらう事の難しさ、特に文面から読み取ってもらう事の困難さを知りました。同時にこの事業が論理的にも倫理的にも適正である事が望まれました。

この事業立案時に必要な概念が PCM 手法で、他領域の人々と共用できる公用語といえるほど便利なもので、発案、計画、実施、モニタリング、評価が一連のサイクルを成し運営管理していく手法です。

この PCM 手法は FASID（国際開発高等教育機構）により 1. 参加型計画手法（PP: Participatory Planning）と 2. モニタリング・評価手法（M&E: Monitoring and Evaluation）が開発され、日本の ODA で 90 年代半ばから使われているようです。米国国際開発庁（USAID）が開発した “ロジカルフレーム” に発するプロジェクトデザインマトリックス（以下 PDM と略）とドイツ技術協力公社（GTZ）が参加型の概念を組み込んだ “ZOPP 手法—目的指向型プロジェクト立案手法” の考え方が取り入れられています。PDM はプロジェクトの管理フォームで、記載された目標・成果・活動・指標・投入などの項目が相互に関連づけられています。

JICA が提起する PDM は関係者のワークショップで作り上げていくのが本来の姿なのですが、南太平洋医療隊が一堂に会するのはトンガ王国、日本では皆仕事に終われる身、故、今回採択された PDM は、隊員の意見を加味しながらも河村 's (+ 医院スタッフ) と JICA 調整員とで作成しました。

PCM ワークショップでは詳細な関係者分析や問題を分析し、この問題を解決する手段を導くための目的的分析までを系図の形で整理しますが、PCM 手法に精通したファシリテーターが必要です。参加者の意見は全てカードに自身で書き提示されます。より枝葉を広げるか、掘り下げるのかは議論され決定していきませんが、他の人の意見を否定しないという事が大切です。この後プロジェクトが選択され、ターゲットグループへのアプローチが絞られていきます。これを基に PDM は作成されます。

サユリ先生、ありがとうございました。PDM 手法、プロジェクトの全容が把握しやすいですね。

個人的に職場の保育園の保健プログラムに応用させていただこう・・・と目論んでいます！

さて、皆さんから寄せられる JAICOH 会費の使用用途の 1 つに学生さんの国際歯科保健活動を支援する "シーズプロジェクト" があります。今回はこのシーズプロジェクトの支援を受けた団体がどのような活動をおこなったのか、2 団体に活動報告を依頼しました。

在日外国人の受け入れに関するアンケート

Community Dental Service (コミュニティ デンタル サービス) / 中久木 康一

我々は 1998 年より、千葉県内での在日外国人を対象とした健康相談会に毎年参加している。在日外国人においては医療機関へのアクセスが遠く、多くに歯科治療が必要とされる状態にあるが、言葉や制度、経済的問題などにより、自分で歯科医院を探すことは困難な場合が多い。しかしながら紹介できる協力歯科医院は限られており、健康相談会を開催してい

上位目標を変えることは出来ませんが、状況に応じ PDM は作り変えていきます。PDM からモニタリング・評価は容易に導けるので、4 半期ごとに義務付けられる各書類を書くのにも便利です。この書類作成は JICA 主導であり、私たちの主たる職業との落差は大きく、煩雑ですが。草の根への応募では、JICA との共通言語として PCM 手法をマスターする必要があります。

JICA や FASID で PCM 手法についてのセミナーが開催されます。開催時期や場所などの詳細は各サイトで調べてください。最後に '06 年度の南太平洋医療隊の PDM を掲載します (別プリント参照)。決して模範回答とはいえない代物ですが、参考になればと思います。

る近隣の千葉県内の 2 市において、歯科医師会に加入している計 442 歯科医院を対象とし、外国人患者の受け入れに関する自己記入返送式のアンケート調査を行った。平成 16 年 1 月 20 日に送付し、調査機関は 1 ヶ月とした。追加連絡は行わなかった。

計 72 歯科医院から返答があり、7 医院は宛先不明および廃院で、返送率は 16.6% だった。外国人患者

の受け入れについては、「積極的」11 医院 (15.3%)、「どちらでもない」30 医院 (41.7%)、「消極的」29 医院 (40.3%) であり、2 医院は無回答であった。「積極的」「どちらでもない」とした歯科医院においては、1) 72.5%が英語で対応可能、2) 健康保険証を持たない場合の治療費は、保険請求額に比べて平均 115% (60~200%)、3) 初診時の予約を必要としたのは 65.0%、であった。



また、一般に外国人患者を受け入れる際の問題や障害は、言葉の問題による治療への理解の少なさ、費用の問題による治療中断などが挙げられた。「予約時間をまもらない」、「無断でキャンセルする」などの予約や診療時間に関する問題は、それに続く「友達を連れてくるので狭くなる」、「1人の治療に4、5人で来院し大きな声で話をする」などといった風習の相違とともに、「価値観の違い」、「思い込みが激しい」といった、文化や考え方の相違と通じるものではないかと思われた。出身国によっては、予約という制度がなかったり、治療費は無料だったり、通院は家族とともにするものだったりもする。学校教育での保健指導なども行き届いておらず、伝統的な考え方に固執する人もいると思われる。



今後とも、日本に生活する外国人に対し日本の歯科医療や風習についての理解を促すとともに、日本の歯科医院に対しても情報を提供し、相互理解に結びつけていけるように努力したい。また、既に数歯科医院には患者を受け入れていただいているが、外国人が日本でも歯科を受診しやすくなるような環境も整備できるように考えていきたい。

※ 挿入されている2枚の写真は、実施されたアンケートを元におこなわれている活動の様態です。

中久木さん／プロフィール

1972 年生まれ。東京医科歯科大学歯学部、同大学院卒。大学 5 年生で方向転換しようと休学してアメリカに行くも、勇気がなく復学。ある程度までやったら、と思っではや 11 年、いまだに一人前にはなれず顎顔面外科に在籍中。専門は顎変形症、口蓋裂。学生時代から東京周辺の在日外国人や野宿生活者に対する支援を中心に、高齢者や障害者施設での健診・口腔衛生指導などの活動にボランティアとして関わっている。最近のお気に入りにはイスラム圏。印象に残っている地は東ティモールとパレスチナ難民キャンプ。



北大シーズプロジェクト活動報告

北大冒険歯科部／黒須拓郎

2002年夏、北大歯学部の中でも数少ない文科系（しかも当時はまだ非公認）サークルであった冒険歯科部は、滝波修一先生率いる総勢8名のメンバーでバングラデシュの首都ダッカを訪れました。このスタディツアーの目的は、1) ダッカの歯科大学や歯科医療機関、歯科診療所を訪問し友好関係を作ること、2) 現地の文化を体験すること、3) スタディツアーを行う際の安全面の調査や、訪問・見学可能な医療機関の現地調査を行うこと、4) 東南・南アジアを旅行するための基本的な技術を習得することでした。

2002年4月にこの企画が立案されて7月にはほぼ全容ができあがり、それから参加者を募って旅立ちまでの1カ月間で事前勉強会や（登院実習前の学生を対象に）北大歯学部病院の見学などの事前準備を行いました。

以上を経て、8月15日にメンバーがそれぞれの経路で現地ダッカに集合しました。その後の活動は以下の通りです。



16日、現地調査開始。The first scientific seminar of Bangladesh Association of Dental Education and Research (BIRDEM HOSPITALにて)に参加、滝波先生の特別講演。17日、Dhaka Dental College（国立大学）訪問、Sapporo Dental College

（私立大学。北大に留学していた卒業生が祖国へ帰って建てた大学）訪問と歓迎会、建国記念モニュメントの見学。



Sapporo Dental Collegeにて

18日、City Dental College（私立大学）訪問、BIRDEM Hospital 訪問、国会議事堂見学、開業歯科医院訪問。20日、バングラデシュ出国。現地での滞在は慌ただしくも非常に充実した6日間でした。

本スタディツアーの反省をまとめます。多くの歯科大学や医療機関を訪問・見学することができ、行った先々で多くの友好関係を築くことが出来ました。現地の文化については、事前勉強会ももちろん必要でしたが実際に向こうへ行ってみてわかったこともたくさんあり勉強になりました。座学と実学は違うということを感じ知らされました。アジアの旅行技術については、今回のような現地集合のような形態をとる場合には特に必要と感じたことですが、出国前に皆が e-mail アドレスを取得しておいたことでメンバーと緊密に連絡を取り合うことができました。

今回の活動の反省を生かし、我々冒険歯科部は2003年以降も海外スタディツアーを精力的に行っております。多くの関係者のご協力・ご賛同を得てこのプロジェクトが続いていると思っております。関係者の皆様に感謝の言葉を述べて、この紹介を終

わりたいと思います。これまでもどうもありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

黒須拓郎さん／プロフィール

北海道大学歯学部 IDAH；冒険歯科部 元代表
現在北海道大学大学院歯学研究科 口腔病態学講座 口腔
顎顔面外科学分野（旧第二口腔外科）の大学院生

第19回歯科保健医療国際協力協議会総会および学術大会のご案内

- ◆会期 2008年7月13日（日曜日）午前9時半受付開始 午後5時より懇親会
- ◆場所 昭和大学歯科病院臨床講堂（6F）東京都大田区北千束2-1-1
最寄駅 東急目黒線洗足駅下車徒歩2分（目黒洗足間約8分）東急大井町線北千束駅下車徒歩5分
- ◆会費 千円（資料・懇親会費を含む）
- ◆演題申し込み締め切り 2008年6月16日（月）
- ◆問い合わせ先 〒341-0003 埼玉県三郷市3-86 JAICOH事務局

TEL/FAX 048-957-3315 e-mail fukaik@ka2.so-net.ne.jp

皆さん奮って
ご参加下さい！



～編集後記～

去年の4月から、私の勤める歯科医院に研修医が来ています。半年という短い期間の中で研修を受け、臨床を経験するわけですが、仕事は兎も角、患者である子どもの扱いに慣れてきたかな？という頃には研修期間は終わってしまいます。そんなこんなで仕事に限らず、『人に何かを教える、伝える』ということの難しさを痛感しているのですが、そんな時にいつも思い出すのはネパールでの保健指導。言葉も生活習慣も文化も違う中で暗中模索したこと。ここは日本！相手だって日本人！言葉だって同じ、生活様式だって大きくは変わらないんだから、どれだけ教えられるか、伝えられるかは自分次第！頑張れ！って自分を励まして・・・もちろん、関わっているのは私だけではありませんが、また半年後、研修医くんはどんな成長を見せてくれるか楽しみです（って楽しんでる余裕、本当はありません・・・が）。

梁瀬

プロジェクト名: トンガ王国の歯科保健のためのプロジェクト

対象地域: トンガタブ本島、ハーパイ諸島 / 期間: 2005年4月～2008年3月 / ターゲットグループ: 対象地域内の4幼稚園 15小学校の園児、生徒約2000名

プロジェクトの要約	指 標	入手手段	外部条件
<p>上位目標</p> <p>1. トンガ王国の歯科保健が確立される</p>	<p>1. トンガ王国の12歳児のDMF歯数が下がる</p>	<p>1. 歯科健診データ</p>	
<p>プロジェクト目標</p> <p>1. トンガ人による歯科保健システムが維持発展される</p>	<p>1. 対象12歳児のDMF歯数が下がる</p> <p>2. 対象児童の受診率の向上</p> <p>3. 対象地域でのトンガ人スタッフが歯科保健に参加する人数の増加</p>	<p>1. 歯科健診データ</p> <p>2. アンケート調査</p> <p>3. 資料</p>	
<p>成 果</p> <p>1. 対象地域で自主的に歯科保健のワークショップが開催される</p> <p>2. 対象施設において自主的に器材の管理ができる</p> <p>3. 対象地域における保健担当者、住民、児童の歯科保健に関する認識が高まる</p> <p>4. 対象児童は、むし歯を予防のため歯磨きやフッ化物を応用する</p> <p>5. 対象児童はむし歯予防のため食習慣を改善する</p> <p>6. 歯科健診結果を踏まえ、むし歯を放置せず治療に通う</p> <p>7. トンガの歯科医師が独自に歯科保健活動を進める施設が増える</p>	<p>1. 歯科保健のワークショップが開催される回数、参加者数</p> <p>2. 対象施設で器材の管理が100%できる</p> <p>3-1. 対象施設におけるむし歯予防教育の回数、参加者数が増加する</p> <p>3-2. ポスターコンクールの開催回数、参加枚数</p> <p>3-3. オーラルヘルスフェスティバルが開催される回数</p> <p>3-4. 歯科保健活動がテレビ等メディアに取り上げられる頻度が増す</p> <p>4-1. 対象児童の歯磨き習慣が確立される割合が高まる</p> <p>4-2. むし歯を予防する為フッ化物を応用する児童の増加</p> <p>5. 食生活が改善する</p> <p>6. 対象児童の受診率が向上する</p> <p>7. 対象施設が増加する</p>	<p>1-1. 活動報告書</p> <p>1-2. 実施写真</p> <p>2. 器材の管理簿</p> <p>3-1. 活動報告書</p> <p>3-2. ポスターの枚数</p> <p>3-3. オーラルヘルスフェスティバルの開催数</p> <p>3-4. テレビ、ラジオ、新聞記事</p> <p>4. アンケート調査</p> <p>5. アンケート調査</p> <p>6-1. 歯科健診データ</p> <p>6-2. 歯科室の資料</p> <p>7-1. 対象施設数</p> <p>7-2. 歯科スタッフに対するインタビュー</p>	

活 動	投入／日本		
<p>1-1. トンガ健康省に於けるワークショップの開催</p> <p>1-2. 対象施設及び地域に於ける歯科保健のワークショップの開催</p> <p>2. 対象施設に於ける器材の管理表を作成し管理ができるようにする</p> <p>3-1. 対象児童にむし歯予防教育を実施する(紙芝居、リーフレット、顎歯模型等)を媒体として</p> <p>3-2. 対象施設の児童に対しポスターコンクールの実施</p> <p>3-3. オーラルヘルスフェスティバルの開催(対象施設のある村、町の人々の集まる場や市場に出向き、写真を媒体に我々の活動をP.Rし、むし歯、歯周病の予防、生活習慣病の予防、食習慣の改善等の保健活動、啓蒙、啓発を行う)</p> <p>3-4. むし歯予防啓蒙・啓発のための教育および活動をテレビ等メディアを活用し、広報していく</p> <p>4-1. 対象児童に歯磨き指導を実施する</p> <p>4-2. 対象児童にフッ素洗口を週1回実施する(幼稚園では毎日法で低濃度のフッ素を使用)</p> <p>5. 対象施設の児童、職員、父兄にむし歯予防、生活習慣病予防のため食習慣の改善を教育する</p> <p>6-1. 対象児童に歯科健診を実施する</p> <p>6-2. 歯科健診結果を踏まえ、治療勧告書を配布する</p> <p>7-1. トンガ人歯科スタッフに教材を配布する</p> <p>7-2. トンガの歯科スタッフに事業に同行してもらい、歯科保健の実施研修を行う</p> <p>7-3. トンガの歯科スタッフに歯科室において予防指導の実施指導を行う</p>	<p>投入／日本</p> <p><人材></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科医師 10名 2. 歯科衛生士 6名 3. 歯科技工士 1名 4. 歯学部学生及び学生 10名 5. 通訳及び事務 1名 <p><機材></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科用ポータブルユニット(1台は保有している) 2. 歯科用機材 3. 歯科健診用具一式 4. 予防歯科用品、教材 5. フッ化物薬剤、器材 6. 事務用品一式 7. ポスターコンクールの器材 8. オーラルヘルスフェスティバルの器材一式 <p><施設></p> <p>ヘルスセンターをヘルスプロモーションセンターへ質的向上、整備する(ヘルスプロモーションユニットの整備、活用、質の向上)</p>	<p><人材></p> <p><機材></p> <p><施設></p> <p>トンガ VAIOLA 病院歯科室 トンガハーパイ諸島 LIFUKA 島診療所歯科室 ヘルスセンター: KOLOVAI/MU'A * トンガタブ本島 * 小学校: NGELEI`A、FATAI、HOLONGA MALAPO.VAINI...、ATELE、TE`EKIU、 FWPS 幼稚園: FATAI/FASI MOE AFI 教会: FASI/HAVELU/POPUA * ハーパイ諸島(LIFUKA) * 小学校: HIHIFO/PANGAI 幼稚園: OFA MOONI/ Sto`AVILA/ TAUFA`AHAU、PILILEVU</p>	<p>前提条件</p> <p>トンガ王国健康省の活動許可証が発行される</p>